

第六分科会第5回会合発言メモ

東京大学 鈴木篤之

1. プルトニウム利用政策に対する国際的な理解の増進

(1) 必要性

- ・エネルギーセキュリティ (世界一の資源小国、世界一の中東依存度)
- ・資源リサイクル (リサイクル技術・リサイクル社会の形成)

(2) 安全性

- ・事故時の安全性 (落下・火災・沈没事故)
- ・MOX とウラン燃料のちがい (軽水炉利用の実績)

(3) 透明性

- ・経済合理性 (天然ウラン→濃縮ウラン燃料と MOX 燃料の比較)
- ・在庫・利用計画 (国内・英仏)

2. 使用済み燃料再処理・管理を巡る対応

(1) 柔軟性

- ・中間貯蔵 (サイト内・サイト外・県内・県外/ポートフォリオ)
- ・国際動向 (米国の MRS、ドイツのゴアレ・ペン)

(2) 経済性

- ・原子力発電規模 (50基・3,500億kW時)
- ・六ヶ所再処理工場 (800ton/yr・15GWd/t ~ 3,000億kW時)

(3) 核不拡散

- ・北朝鮮 (使用済み燃料管理・IAEA 査察・KEDO)
- ・使用済み燃料基準 (解体核のプルトニウム管理・国際管理)

3. 国際輸送の円滑な実施

(1) 国際協力・協調

- ・ルート関係国 (対話・信頼醸成)
- ・英仏 (対米・外交交渉)

(2) グローバルな課題

- ・核軍縮促進 (米ロ間・カナダ)
- ・研究炉燃料 (米国・オーストラリア)